

誰もがいきいきと自立した生活を送ることができるよう、高齢者や障害者などの支援と福祉の充実、人権尊重と生きがいをめざします。

地域包括ケアシステムの構築



在宅医療と介護の連携強化、認知症施策の充実・強化など、地域包括ケアシステムの構築に向けて、各サービス・事業を実施するとともに、普及啓発につとめます。

地域包括ケアシステム

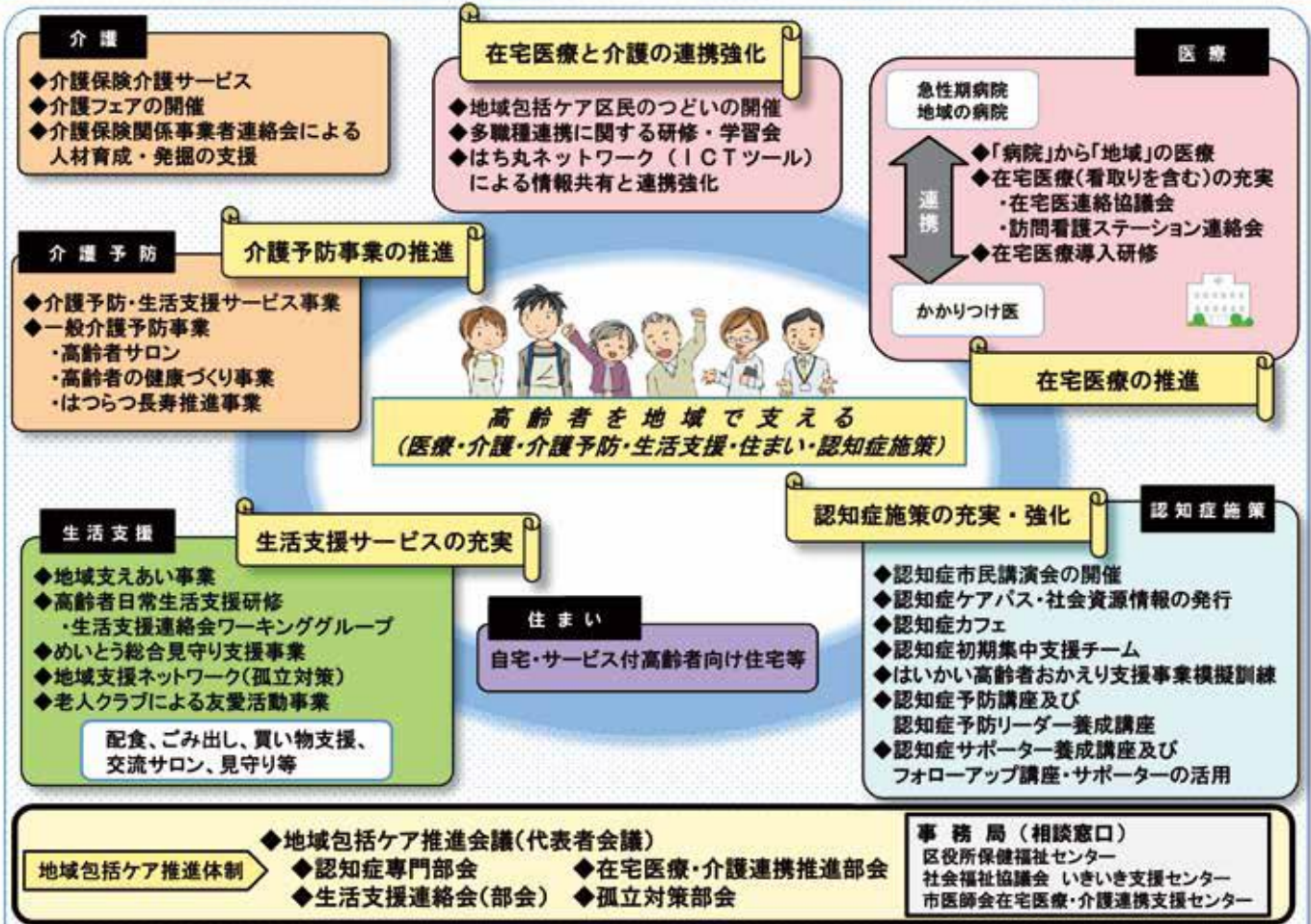
団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向け「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける」ことができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まい・認知症施策が一体的に提供される仕組み。

目標

認知症カフェの設置学区数 14学区

担当部署：福祉課、保健予防課、社会福祉協議会

名東区における地域包括ケアシステム構築の取り組み(平成30年度)



1 介護フェア

介護を身近に考えていただく機会として、介護保険関係事業所と地域包括ケア推進会議で介護フェアを共同開催します。



地域包括ケアシステムの構築

在宅医療と介護の連携強化

② 地域包括ケア区民のつどい

訪問診療や介護サービスなどを利用する在宅療養について、区民の理解を深めるための講演会を開催します。



③ はち丸ネットワークによる情報共有

在宅療養者に係る医療・介護関係者が迅速に情報共有できるICTツールをより多くの関係者に活用していただきます。

④ 多職種間連携に関する研修会

在宅療養を支える地域の医療・介護関係者の連携促進をはかるため、相互の職種への理解を深めることを目的として研修を実施します。

認知症施策の充実・強化

⑤ 認知症市民講演会

認知症への理解と対応について、普及啓発につとめます。



⑥ 認知症サポーターの養成と活用・はいかい高齢者おかえり支援事業

一般の方だけでなく、小中学生や金融機関、郵便局、新聞販売店、コンビニの従業員などを対象に認知症サポーター養成講座を実施し、認知症の方への理解を深めるとともに、はいかい高齢者おかえり支援事業模擬訓練を実施し、おかえり支援サポーターを増やします。



⑦ 認知症カフェ

認知症のご本人やご家族だけでなく、認知症に関心のある誰もが気軽に集まり、仲間づくりや情報交換の場となる認知症カフェを地域で増やすとともに、活用されるよう普及啓発につとめます。

地域包括ケアシステムの構築

生活支援サービスの充実



8 地域支えあい事業

高齢者のちょっとした困りごとを「ご近所ボランティア」で対応する地域支えあい事業の実施学区を増やします。

9 高齢者日常生活支援研修

生活上の困りごとを抱えた高齢者などを支援する人材を区内で発掘・養成します。

10 介護予防事業の推進



介護予防を普及啓発する「いきいき教室」、大学と連携実施の「健康カレッジ」、サロンへの保健福祉センター専門職員の派遣など高齢者健康づくり事業を実施するとともに、介護予防活動の普及啓発のため、はつらつ長寿推進事業を実施します。



11 SOSあんしんカード・ポット



緊急時・災害時に高齢者や障害者の救援が迅速に行えるよう、医療情報や緊急連絡先を記録して携帯または冷蔵庫に保管しておく「まいとうSOSあんしんカード・ポット」の活用・普及につとめます。

目標

あんしんカードの配布数 700枚

担当部署：総務課、福祉課、
保健予防課、社会福祉協議会
30年度自主的・主体的予算：120千円

12 授産製品の販路拡大



再掲 ⇒ 詳細は4ページ

障害者の生きがいと収入確保につながるため、授産製品のカタログを配布するほか、区役所・区内公共施設で授産製品の紹介パネルなどを展示し、製品の販路拡大を支援します。

担当部署：福祉課
30年度自主的・主体的予算：
368千円

13 生活保護受給者などの自立支援



- 生活保護受給者に対して、就労支援員とケースワーカーによる集中かつ継続した就労支援を行うとともに、ハローワークの「就労支援コーナー」と連携して、自立を支援します。
- 生活保護窓口において、生活に困窮する方の総合相談窓口「仕事・暮らし自立サポートセンター」や、生活困窮世帯などの中学生の学習支援事業の周知、紹介につとめます。



目標

就職する生活保護受給者数 180人

担当部署：民生子ども課